

平成24年10月2日

岡谷市長 今井 竜五 様

岡谷市行政評価外部評価委員会

委員長 胡桃沢 好雄



平成24年度 岡谷市行政評価外部評価報告書の提出について

私たち、岡谷市行政評価外部評価委員会は、今年度新たな取り組みとして、評価対象をこれまでの施策から事務事業とし、「第4次岡谷市総合計画」の基本目標2「ともに支えあい健やかに暮らせるまち」の8事業について外部評価を行いましたので、ここに外部評価報告書を提出いたします。



平成24年度

岡谷市行政評価外部評価報告書

平成24年10月

岡谷市行政評価外部評価委員会



## 1 平成24年度の外部評価について

### (1) 外部評価の実施目的

平成18年度に設置した岡谷市行政評価外部評価委員会では、市が行っている行政評価の客観性や信頼性を確保することを目的に評価を実施してきましたが、今年度は新たな取り組みとして、事務事業について①市の関与の必要性、②基本目標に対する貢献度などの有効性・妥当性、③コストなどの事業の効率性の3つの観点から外部評価委員による検証を行ったものであります。

なお、この外部評価は、事業費の削減を目的とするものではなく、あくまでも外部・市民の目線で事業そのものの必要性やあり方を検証し、事業の再構築に結びつけるとともに、合わせて事業の内容について市民に知っていただくことを目的とし実施しました。

### (2) 外部評価の対象

外部評価の対象とする事業については、これまでと同様に第4次岡谷市総合計画の基本目標の分野ごとに実施することとし、金額等一定の要件を満たす事業のうちから外部評価委員会を選定した事業を対象としました。

なお、今年度の外部評価については、新たな取り組みであることから、市民に身近な福祉分野である基本目標2「ともに支えあい健やかに暮らせるまち」を評価対象としました。

### (3) 外部評価対象事業の選定

今年度の外部評価対象事業の選定については、平成23年度事務事業評価の福祉分野から事業費が100万円以上で、前年度の施策評価がA（事業拡大）以外を対象とすることとしました。なお、義務的な事業や国等の補助対象事業は対象外とし、148事業のうち外部評価委員会で次の8事業を選定しました。

- ① 保健センター管理事業（健康推進課）
- ② 不妊治療補助金（健康推進課）
- ③ 私立幼稚園運営費補助金（子ども課）
- ④ 私立幼稚園就園補助金（子ども課）
- ⑤ 地域サポートセンターバリアフリー事業補助金（社会福祉課）
- ⑥ 福祉タクシー運行事業（社会福祉課）
- ⑦ 要援護高齢者生活支援等事業（介護保険課）
- ⑧ 人間ドック助成事業（医療保険課）

#### (4) 評価方法

- ①事前説明：評価対象事業に関する資料の事前配布と事業概要の説明  
日時：平成24年7月19日（木）午後4時から5時30分
- ②ヒアリング：担当からの事業概要説明、質疑・討論  
日時：平成24年8月10日（金）午後1時15分から5時00分
- ③事業の検証：評価シートによる事業の検証  
日時：平成24年8月11日～8月24日
- ④報告書の作成：評価シートの取りまとめ、報告書の作成  
日時：平成24年8月24日～9月26日

#### (5) 評価基準等

- ①市の関与の必要性
  - ・行政関与の必要性
  - ・時代やニーズの変化による必要性
  - ・民間での実施の可能性
  - ・廃止したときの影響
- ②基本目標に対する貢献度など有効性・妥当性
  - ・事業目的の役割と成果
  - ・他市町村との比較
  - ・他事業との統合、事業手法の見直し
  - ・国、県、広域での実施の可能性
- ③コストなどの事業の効率性
  - ・コスト削減の可能性
  - ・外部委託、民間活用
  - ・適切な受益者負担

#### (6) 外部評価の活用方法

今回の外部評価の結果は、市が行っている事業の内容を市民目線で見ただけであり、この結果や意見などを踏まえて、事業のあり方や予算に反映できるように努めるとともに、広く市民に事業内容を理解していただくため評価結果を公表します。

## 2 外部評価結果

### (1) 評価結果

No	事業名	担当	総合評価	結果総括
1	保健センター管理事業	健康福祉部 健康推進課	B	市民の健康保持、増進を図るためには必要な施設であることから、管理運営方法については、庁舎など他の施設との一元管理や病院への併設、空き施設の活用を含め検討が必要である。
2	不妊治療補助金	健康福祉部 健康推進課	A	少子化対策、人口増対策には重要な事業であり、さらなる事業の周知徹底と、岡谷市としての特色を出した制度の充実を図る必要がある。
3	私立幼稚園運営費補助金	健康福祉部 子ども課	B	子どもの育成支援では必要な事業であり、継続すべきではあるが、成果や効果について充分検証し、各幼稚園の経営方針や事業姿勢等による総合的な判断も必要である。
4	私立幼稚園就園補助金	健康福祉部 子ども課	B	総体的な子育て支援の中で、第3子の減免制度も含めた補助制度の必要性や内容を再検証し、他市町村の状況も参考に検討する必要がある。
5	地域サポーターセンターバリアフリー事業補助金	健康福祉部 社会福祉課	B	サポーターセンターの設置、活動の推進のためには必要な事業であるが、区とサポーターセンターの係わりを踏まえて、活用し易い補助制度に見直す必要がある。
6	福祉タクシー運行事業	健康福祉部 社会福祉課	B	交通弱者対策としては、継続すべき事業であるが、費用対効果の面ではシルキーマバスとの連携など、効率的な運行に向けて見直しが必要である。
7	要援護高齢者生活支援等事業	健康福祉部 介護福祉課	B	利用者数に対して、コストがかかり過ぎているため、手続きの簡素化などを図り、コストの抑制と利用者増に向けた見直しが必要である。
8	人間ドック助成事業	市民環境部 医療保険課	A	早期発見、早期治療また、医療費抑制のため人間ドック受診率の向上は重要であることから、助成制度は継続すべき事業であり、今後さらなる周知により利用者増に向けた取り組みが必要である。

※総合評価結果 A=「継続」 B=「改善・見直し」 C=「整理・統合」 D=「廃止」

## (2) 事業別評価結果

### ①保健センター管理事業（健康福祉部健康推進課）

総合評価結果	結果 総括
B（改善・見直し）	○市民の健康保持、増進を図るためには必要な施設であることから、管理運営方法については、庁舎など他の施設との一元管理や病院への併設、空き施設の活用を含め検討が必要である。
個別理由	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務委託の内容はよくわかったが、庁舎管理と分けなくてもよい。</li> <li>・綺麗に使用されており、小さな子どもを連れて来やすい施設であるので長く大切に使用してほしい。</li> <li>・建物の老朽化が気になるが、市民の健康づくりの建物として維持管理は必要である。</li> <li>・保健センターで行う業務を他の施設に移せばコストの削減が可能である。</li> <li>・市役所庁舎と同じ敷地にあるので、一体管理をすべきと思う。</li> <li>・継続していくべき施設と思うが、改善が必要である。</li> <li>・他の用途使用を可とし、他の施設を含めた全体での一元管理が必要である。</li> <li>・充実した施設であり、多世代にわたり活用するなど、使用頻度を高める必要がある。</li> <li>・市民の健康意識は高く、必要性は多大である。</li> <li>・管理自体を市でやらなくてもよいのではないかと考える。</li> </ul>	
事業に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人件費が毎年同じであり、実績をみて見直すべきである。</li> <li>・新しい病院への併設又は、市庁舎の空きスペースなどの活用ができないか。</li> <li>・施設管理を事業とする部署としない部署があるが、不明確である。</li> <li>・部や課を超えて、施設の統合が必要ではないか。</li> <li>・管理事業のみに対する評価は難しい。</li> <li>・市の建物管理方法は分散管理であるが、集中して一つの部署で行った方が統一した管理方法になるのではないか。</li> <li>・調理室等の設備も充実しており、他団体などの活用も含め有意義な利用は望めないか。</li> <li>・市民の健康を指導してもらえる専門施設として、充実したものであってほしい。</li> <li>・建物管理だけを一つの事業としてとらえるのはどうか。</li> <li>・管理運営を一つの事業として評価する方が意味があると思う。</li> <li>・あまり事業を細分化するのはいかなものか。</li> </ul>	



②不妊治療補助金（健康福祉部健康推進課）

総合評価結果	結果 総括
A（継続）	○少子化対策、人口増対策には重要な事業であり、さらなる事業の周知徹底と、岡谷市としての特色を出した制度の充実を図る必要がある。
個別理由	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な分野なのであまりコメントできないが、これからも補助金は必要な分野である。</li> <li>・不妊治療を受けている方が広く多数利用できることを考えると、期限回数の設定はあって良い。</li> <li>・年々妊娠される方が減り、少子化対策に貢献するにもこうした補助金の事業が必要である。ただ、一部負担金の限度額が9万円というのが果たして妥当なのかは疑問である。</li> <li>・少子化対策の一つとして継続は必要であり、今の人数ならば他の市町村のような制限は必要ない。</li> <li>・所得制限を設けてもよい。</li> <li>・少子化対策最後のとりでだと思うので、もっと充実させる必要がある。</li> <li>・人口増対策であれば中途半端であり、所得制限を設け、支給額増の検討が必要である。</li> <li>・子どもが欲しいという気持ちに市が手助けすることは必要である。ただし、事業として成果をどう評価するかは難しい。</li> <li>・10代の頃からの教育等も含めて、周知を徹底させた上で、期限や所得制限など、設定する必要がある。</li> <li>・子どもが欲しいと希望している人達に援助する必要性は多大である。</li> <li>・当面は継続の必要性があるが、あまりにも件数が少ないため、もっと広く周知の必要がある。</li> </ul>	
事業に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・治療した経験者やその周辺の人意見を聞きながら外部評価すべきではないか。</li> <li>・他市町村がどうかではなく、岡谷市としてどうしたいかが必要だと思う。</li> <li>・不妊治療の結果がこんなに厳しいとは思わなかった。</li> <li>・成果という言葉も一部あるが、この事業では難しいのではないか。この事業があることで、利用者が結果はどうであれ納得のいく治療が受けられたかが重要ではないかと思う。</li> <li>・人口増加策の一つとしての必要性はあると思う。岡谷市として独自の出生した場合のお祝い金制度等の検討も必要ではないか。</li> </ul>	

③私立幼稚園運営費補助金（健康福祉部子ども課）

総合評価結果	結果 総括
B（改善・見直し）	○子どもの育成支援では必要な事業であり、継続すべきではあるが、成果や効果について充分検証し、各幼稚園の経営方針や事業姿勢等による総合的な判断も必要である。
個別理由	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・私立幼稚園の運営費補助金として、このような金額が出ていたことに正直驚いた。保育園の統合もあるなか、幼稚園は理念や方針の違いもあるが運営の見直しも必要である。</li> <li>・事業としては継続すべき事業だと思います。「私学」ではありますが、あくまで、子育て支援であり、市民が選択できる環境を整えてることは必要である。</li> <li>・公立、私立の平等化では補助金があっても良いと思うが、公立の保育園の統合や無認可の保育園への補助など、継続ではあるが子育て支援としては、検討も必要である。</li> <li>・公共性からある程度の補助は必要である。</li> <li>・子育て支援、人口増加に効果が出ているのかみえてこない。</li> <li>・幼稚園経営の最低水準維持のため必要である。</li> <li>・一律給付ではなく、経営方針、事業姿勢等の総合判断による、金額のメリハリも必要である。</li> <li>・黒字率に対応する補助の必要性も検討が必要であり、私立なのか、公立なのか曖昧である。これから園児の減少化もあるので、第3セクターのようなかたちでの私立幼稚園で安い保育料でという方法などの検討も必要である。</li> <li>・当面は継続の必要性があると思うが、園児が減少している現状では施設割補助金の検討が必要である。</li> </ul>	
事業に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・民活の長所を出せるような幼稚園、保育園との共存を望む。</li> <li>・もっと成果を具体的に調べてみる必要性があるのではないか。</li> <li>・幼稚園を支えるための事業と思われるが、30人規模の2幼稚園は今後継続が難しくはないか。</li> <li>・一部の園では、園舎も綺麗になり、園児も増えたと聞いている。質に関わらない範囲であれば、あくまでも補助金なので見直す必要はあるのではないか。</li> <li>・幼児育成のためには、安全で安心できる環境での施設であって欲しい。</li> <li>・目的にも掲げられてあるように、より良い環境の下で幼児教育が行われて欲しい。</li> <li>・親が働き易いよう夜間保育等の検討も必要ではないか。</li> </ul>	

④私立幼稚園就園補助金（健康福祉部子ども課）

総合評価結果	結果 総括
B（改善・見直し）	○総体的な子育て支援の中で、第3子の減免制度も含めた補助制度の必要性や内容を再検証し、他市町村の状況も参考に検討する必要がある。
個別理由	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもは宝で、補助は必要ではあるが、保育園は就労者が安心して働けるように子どもを見てもらう場所で、幼稚園とは目的が違う。補助を出すにもその点が疑問である。</li> <li>・岡谷市内の園児を育てる環境づくりとして、同等での援助は必要である。</li> <li>・就園補助金に関しては、第3子がどのくらいいるのか、また私立の児童に対してもその保護者の負担をするべきなのか疑問である。</li> <li>・補助金について見直す余地がある。</li> <li>・子育て支援、人口増加に効果が出ているのか分からない。</li> <li>・なぜか幼稚園のほうが優遇されている気がする。</li> <li>・他市町村の状況も合わせ検討が必要である。3子ではなく、2子3子一体での対応が必要である。</li> <li>・民間で行っている事業に対して補助が妥当か検証する必要がある。市民負担の平等公平の視点は必要だが、100%一緒は必要なのか疑問である。</li> <li>・幼稚園にとってのメリットだけにはして欲しくない。岡谷は幼稚園、保育園のあり方が特殊である印象を受ける。現在、保育園に入り難い状況ではない。</li> <li>・経済的に困難な現在の社会情勢を考えると補助金は必要である。</li> <li>・客観的に見て、幼稚園と保育園を一緒にするのは疑問であり、話し合う余地はある。その時通っている保護者のみではなく、広い市民の考えを取り入れる必要がある。</li> <li>・当面は継続の必要性のある事業であるが、手順手続き、業務の効率化は必要である。</li> </ul>	
事業に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡谷市が他の市町村より優遇されている点はもっとアピールすべきである。</li> <li>・改善の余地としては、第3子補助の部分を第1子、2子に均らしてはどうか。</li> <li>・もっと成果を具体的に調べてみる必要があると思う。</li> <li>・もっと調査が必要。年収による区別が必要ではないか。</li> <li>・最初に「無料」としてしまうことに計画性を感じられない。保護者の態度やサービスの受け方にも影響が出てしまうのではないか。</li> <li>・子どもは私たちの大切な立場にあり、幼児教育には欠かす事が出来ない。また、保育園児、幼稚園児の区別無い子育て支援であって欲しい。</li> <li>・保育料を考えると、小さい金額ではないことをわかって欲しいと思う。だから3人目はせめて無料でとの意見も出るのではないか</li> </ul>	

⑤地域サポートセンターバリアフリー事業補助金（健康福祉部社会福祉課）

総合評価結果	結果 総括
B（改善・見直し）	○サポートセンターの設置、活動の推進のためには必要な事業であるが、区とサポートセンターの係わりを踏まえて、活用し易い補助制度に見直す必要がある。
個別理由	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・改修工事に対して、金額の大小が感じられる。工事の内容で金額が異なるのは当然であるが、小額でもなるべく負担を軽減できる措置が必要である。</li> <li>・「必要な部分の改修」という意味合いで言えば、現状の補助制度で良い。</li> <li>・単年度で終わるものではないので、当然建物の老朽化や修繕など継続してもらいたい。</li> <li>・適正な運用の見直しが必要である。</li> <li>・区の財政基盤によって1／3を見直すべきである。</li> <li>・各区のサポートを公平にしていくべきである。</li> <li>・区とサポートセンターを分離することに無理がある。もう少し、制度を見直した方が良い。サポートセンターに補助といっても区の施設に補助することになる。</li> <li>・基準が大雑把な印象があり、小さい区や小さな工事等でも不自由にならないように考慮する必要がある。区による差や不公平感がないような工夫が必要である。</li> <li>・地域住民のコミュニケーションの場所として必要不可欠である。</li> <li>・市が進めている地域サポートセンターの推進のひとつの方策としては進める必要があるが、事業として取り上げるとしては、規模が小さいので簡素化は必要である。</li> </ul>	
事業に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリーは費用の大小に関わらずもっと進めるべきではないか。</li> <li>・公共施設は出来るだけバリアフリーにする必要があるが、事業のチェックは行政でしっかりやる必要があるのではないか。</li> <li>・サポートセンター長はほとんどの区で区長が兼務しており、別に区別せずに区の中で事業を行って欲しい。区の中にこんな組織を作って欲しい。としたほうがスムーズに発足できたと思う。</li> <li>・発足したサポートセンターのその後を追いかけ、市がイメージしたサポートセンターがあったら積極的にアピールして広めて欲しい。</li> <li>・区の規模に応じて一律支給し、使用用途の限定で区に一任できないか。全地区設置後事業完了できないか。</li> <li>・区のあり方も考えていく必要もあるのではないかと思う。自治区に対しての市民の考え方のズレが生じないように市からの働きかけを強くして欲しい。</li> <li>・地域住民の活動の場所はもちろんの事、災害時などの避難場所としても、危険を防げる施設内部の環境であって欲しい。</li> <li>・各区のサポートセンターには耐震性に問題がある施設が多い。耐震診断等まで広げる必要性があると思う。</li> </ul>	

⑥福祉タクシー運行事業（健康福祉部社会福祉課）

総合評価結果	結果 総括
B（改善・見直し）	○交通弱者対策としては、継続すべき事業であるが、費用対効果の面ではシルキーバスとの連携など、効率的な運行に向けて見直しが必要である。
個別理由	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容を見ると事業に対して費用がかかりすぎており、何か対策が必要である。</li> <li>・病院への利用者については、利用者とタクシー業者ともに効率の良い方法を検討する必要がある。</li> <li>・交通弱者への交通手段では絶対に必要である。今後80歳以上の利用者が多くなり、対象者がどれだけ増えるのか、問題もあると思うが、継続して良い。（乗合化も積極的に行うよう周知すべきである）</li> <li>・コスト、手続き等で削減が必要である。</li> <li>・目的地が絞られていれば、他の方法も検討が必要である。</li> <li>・シルキーバスや病院間のシャトルバスのような運行も検討が必要である。</li> <li>・委託先の入札などでコストダウンを図る必要がある。</li> <li>・利用者の動向や時間帯により、ワゴン車等の乗合いも可能であり、シルキーバス、福祉タクシーの中間が出来ないかの検討が必要である。</li> <li>・乗合化を進め収入増につなげる必要がある。</li> <li>・広報が十分なのか。利用者の制限が今のままで良いのか検討が必要である。</li> <li>・今後予算は増加していくと思われるので、個人負担金の見直しも考えるべきである。（一律500円とか、1/3負担とか）</li> <li>・民間の輸送手段の運営の難しさもあるので、仕方ない部分は大きい。バス等の利用者減による便数の減少や、大型店の進出による地域小売店の減少で自分で運転出来ない人達には救われる事業である。</li> <li>・シルキーバスとの連携等の検討課題がある。</li> <li>・利用者があまり特定の人に片寄らない様な配慮が必要である。</li> </ul>	
事業に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・タクシー会社に依頼の電話をすると、「時間がかかる」「混みあっている」など不快な対応をされるという声を耳にする。親切な対応に心がけてほしい。</li> <li>・台数分借り上げ方式だが、借り上げせずタクシー代との差額を補助する方式のシュミレーションして欲しい。</li> <li>・事業の主旨は良いが、悪用されることのないようにしてほしい。</li> <li>・病院等1回300円を支払う高齢者は、結構余裕のある高齢者ではないか。要介護者及び障害者は現状でよいのではないか。</li> <li>・シルキーバス、ミニバスと福祉タクシーについてうまく統合して運用できないか。</li> <li>・この事業により、経済の活性化にも結び付き、特に高齢者の活動の助成に結び付くのではないか。慢性的疾患の高齢者への定期的利用の手段には欠かす事の出来ない事業であるが、利用方法に問題は無いのか。</li> </ul>	

⑦要援護高齢者生活支援等事業（健康福祉部介護福祉課）

総合評価結果	結果 総括
B（改善・見直し）	○利用者数に対して、コストがかかり過ぎているため、手続きの簡素化などを図り、コストの抑制と利用者増に向けた見直しが必要である。
個別理由	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後この事業にかかる費用は増えると感じているが、現段階で利用者に対して職員等にかかるコストが大きい。</li> <li>・介護している家族にとって、必要不可欠な事業である。費用対効果といった所だけでは見えにくい部分があり、民間でも対応可能な部分はあるかと思うが、行政が関わってくれる安心感という点も大きい。</li> <li>・介護保険の制度がわかっている人にはある程度理解できるが、サービスの内容はもう少し検討すべきである。</li> <li>・市の職員が掛けている人工数（事務処理時間）に対してサービスとしての出力（経費）が小さすぎる。もっと利用してもらうことが必要である。</li> <li>・事業の効率化が必要である。</li> <li>・支援額に対して事務経費が掛かりすぎである。</li> <li>・対象人数に対して人件費が大きすぎる。</li> <li>・事業は重要であるが、対象者が少ない中で人件費がかかりすぎである。</li> <li>・コストに関して説明が必要である。</li> <li>・介護保険の足りない部分を補うことは必要であると思うが、コストのかからないスマートな方法の検討が必要である。</li> <li>・家庭での援護生活には、それぞれへのケースに対して対応できる充実したこの事業が必要不可欠である。また、老老介護が増加しており大切な支援である。</li> <li>・地域サポートセンターの充実や活用により間接費を下げる必要があると思う。民生委員の充実も必要である。</li> </ul>	
事業に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定の手続きの簡略化を行えばもっと利用してもらえる可能性があると思う。人件費も削減できるのではないか。</li> <li>・事業が多岐にわたり、その立場にならないと理解がむずかしい。担当者の悩みはあると思うが、一律に外部評価はなじまないのではないか。</li> <li>・他の事業の中に吸収することはできないか。</li> <li>・市独自で判断するとのことだが、介護判定を準用できないか。</li> <li>・家庭でどんな介護の立場であっても安心してサービスを受けられるように、一層充実した事業の充実を望みたい。</li> <li>・市民にとって必要な事業であると思うが、地域サポートセンター、民間業者等との連携を深める必要があると思う。</li> </ul>	

⑧人間ドック補助金（市民環境部医療保険課）

総合評価結果	結果 総括
A（継続）	○早期発見、早期治療また、医療費抑制のため人間ドック受診率の向上は重要であることから、助成制度は継続すべき事業であり、今後さらなる周知により利用者増に向けた取り組みが必要である。
個別理由	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の課題の一つとして、岡谷市指定の医療機関で受けた人はもう少し補助金を増やす、又は市指定以外は補助金を少なくするなど、市の医療機関で受診を増やす検討が必要である。</li> <li>・市民が心身ともに健やかに暮らすために必要な事業である。補助により検診が受けやすくなる。</li> <li>・国保の被保険者が対象となる事業だが、人間ドックの費用は医療機関により差があるものの、保険者の負担は高く、補助する必要がある。</li> <li>・人間ドックの利用を増加する必要がある。</li> <li>・補助対象を市内の機関にするべきである。市外の機関であれば減額などの対策も必要である。</li> <li>・利用者が対象者の3%では、違う手法の検討が必要である。</li> </ul> <p>(利用者が30%になれば約7千万円の財源が必要になるため、財源確保も問題となる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康を守るため必要とは思いますが、健康に関心の高い人は受ける、低い人は受けないので、こういう部分への対応も必要である。</li> <li>・健康保持に寄与している事業のため必要である。</li> <li>・さらに充実させるべきと思っているが、特定健康診査、検診車等の健康診査方法があるので関連の検討が必要である。</li> </ul>	
事業に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が3%では少ないと感じる。むやみに予算を増やす必要はないが、社会全体として医療費を削減する（＝国民が健康である）観点から、利用者の増加の努力をしたほうが良いと思う。</li> <li>・病院によってドックの経費が違うというが、あまり差が大きいと制度に合わないように思う。</li> <li>・市内に4機関あるのに市外機関の比率が高いのではないか。</li> <li>・人間ドック補助金をもらってもまだ自己負担が高く、生活に余裕がないと受けられない。</li> <li>・国保内での運営において問題がなければ継続していいのではないか。人間ドックのあり方、技術の向上等に期待したい。</li> <li>・あまり簡素化しすぎると、この目的を充実させることが出来ないこともあり、必要以上の簡素化は避けたほうが良い。疾病擁護のためにも、アピール・周知し多くの受診を望みたい。</li> <li>・特別な理由がない限り、人間ドック利用先を市立岡谷病院に限定すべきではないか。</li> </ul>	

## (2) 外部評価のまとめ

今年度の外部評価につきましては、これまで行ってきた外部評価の課題等を踏まえて、施策評価を対象としていた評価方法を見直し、具体的な事務事業に踏み込んだ検証を行いました。

これは、新たな行政改革手法の一つとし、市民目線により事業そのものの必要性や実施方法を評価し、直接的な行政サービス等に対する検証を行うとともに、市の行っている事務事業の具体的な内容などを理解することを目的に実施しました。

限られた時間の中での検証であり、十分な議論を尽くしたわけではありませんが、市民の代表として市民の立場から、行政サイドとは違った様々な考え方や意見が出されたので、今後、事業のあり方や予算へ反映させるための意見として、内部で充分議論していただきたいと思います。

対象の8事業につきましては、「廃止」とする意見はありませんでしたが、常に社会経済情勢の変化や市民ニーズに対応した事業の見直しが必要であると考えます。また、「継続」としたものは、その必要性を十分に踏まえ、引き続き、啓発などによる利用率の向上に向けて積極的な取り組みをお願いします。

岡谷市は、ますます深刻となる少子高齢化の進展や様々な課題が山積しており、引き続き厳しい財政状況が懸念されます。しかし、こうした状況の中であっても、市民の安全・安心を守るための新病院の建設、新消防庁舎の建設、湖周行政事務組合が行うごみ処理施設の整備が具体的に形としてみえてくる年となり、市民は大きな期待をしているところであります。

今後も、限りある財源の中で効果的かつ効率的に事業を進めるとともに、市民に対する行政の説明責任を果たすためにも、引き続き外部評価を実施するとともに、将来都市像「みんなが元気に輝くたくましいまち岡谷」の実現に向けた、積極的な取り組みを期待いたします。



## 岡谷市行政評価外部評価委員会

会 長 胡桃沢 好 雄

副会長 両 角 陽 子

今 井 千 恵

今 井 瑞 穂

岩 原 留美子

梅 垣 和 彦

小 口 裕 司

北 原 光 治

近 藤 和 男

篠 原 正 典

濱 一 平

丸 山 正 美

三 澤 勝

宮 下 雅 絵

横 内 直 義

(50音順)